



株式会社エムニ オンラインウェビナー

# 開発現場でIPランドスケープを高速かつ手軽に。 AIが技術内容まで理解し、ホワイトスペースを仮説出し

---

2026年 8月 6日  
12:00~12:45

## 本日の進行について



### Q&Aについて

ご質問はZoomチャットに随時ご入力ください。  
セッション終了後に  
まとめて回答いたします。



### 録画について

本ウェビナーは録画しております。  
アーカイブ動画は後日公開します。  
ご自身での録音・録画・スクリーン  
ショットはお控えいただきますよう  
お願い致します。



### マイク・カメラ

参加者の皆様は視聴中、カメラ及び  
マイクはオフをお願いいたします。



### アンケート

ウェビナー終了後、Zoomからアン  
ケートが送信されます。  
回答いただいた方へ、  
本日投影の資料を送付いたします。

# INDEX

1. オープニング : 5分 【12:00 ~ 12:05】
2. 問題定義 : 10分 【12:05 ~ 12:15】
3. 解決策・デモ : 20分 【12:15 ~ 12:35】
4. Q&A : 10分 【12:35 ~ 12:45】

※質問は随時チャットで受け付けております

## 自己紹介

### 山本 夏彦

- (株)VRAIN Solutionにて製造業×AIの領域でキャリアをスタート。
- その後、(株)リクルートにて法人営業及び新規事業開発に従事。
- 現在はエム二で知財領域の事業開発を担い、  
製造業の知見を活かして、実務に根ざしたプロダクトづくりを  
推進している。



## 自己紹介

### 下野 祐太

- 京都大学大学院エネルギー科学研究科応用科学専攻 修了。
- (株)松尾研究所にて製造業向けのAI社会実装に3年間従事。
- その他、AI企業でのプロジェクト経験多数。

Forbes Japan 30 Under 30 2025受賞。



# 会社概要

Using Generative AI To Drive Industry 5.0 Transformation

# 京都大学発 松尾研発 スタートアップ



京都大学



松尾研究所

## 東京大学 松尾豊教授による弊社のご紹介

### 製造業へのAI活用に特化したスタートアップ

代表の下野氏は松尾研究所で3年間、製造業向けAI社会実装に深く携わってきた経験を持ち、その豊富な知識と実績が大きな強みとなっています。

共同創業者の後藤氏をはじめ、有名ITメガベンチャーでのプロジェクト経験を持つメンバーが多数在籍しており、技術力と創造性に溢れたチームを形成



技術顧問  
東京大学大学院工学系研究科  
松尾豊 教授

会社名

株式会社エムニ

主要取引銀行

三井住友銀行 上野支店

設立日

2023年10月31日

連絡先

info@emuniinc.jp

代表取締役

下野祐太

東京オフィス

〒101-0031 東京都千代田区東神田1丁目11-5 石田ビル東神田3F

従業員数

160名（インターン・業務委託含む）

京都オフィス

〒606-8307 京都市左京区吉田上阿達町17番地 地域経済牽引拠点 3 階

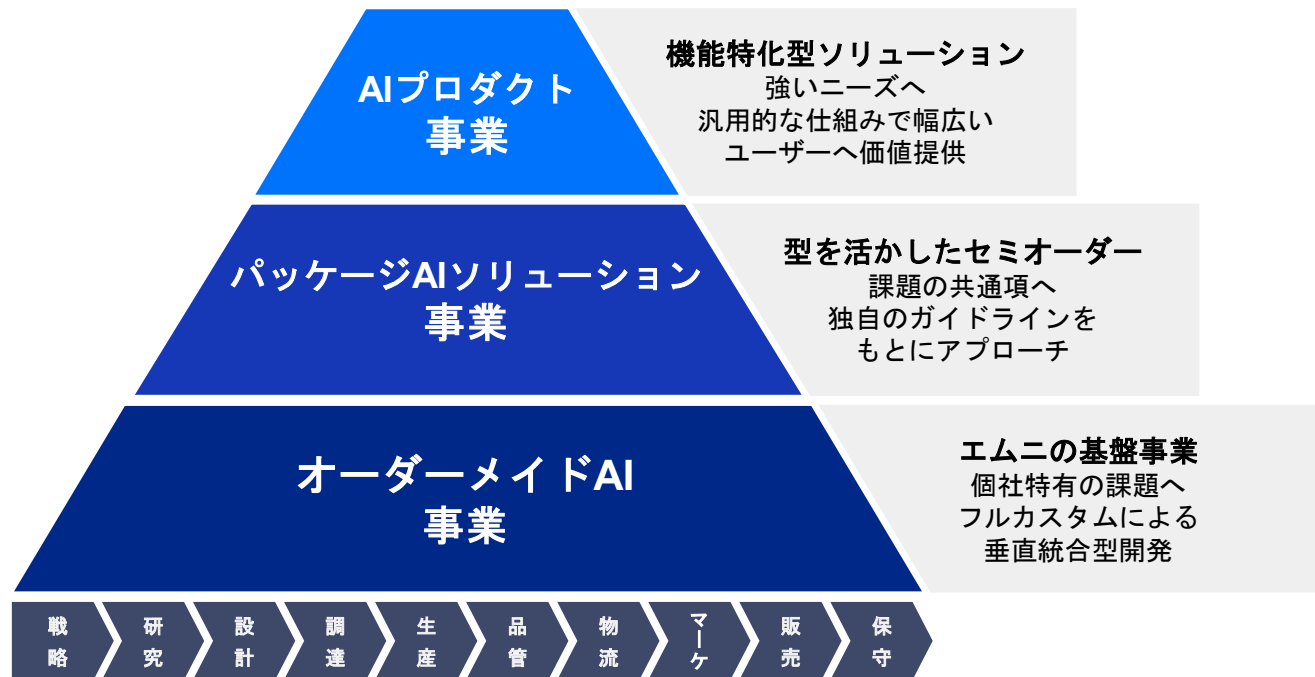
## 組織構成

素早いPoCの実施に加え、安定稼働できるシステム開発も提供可能な組織



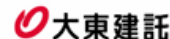
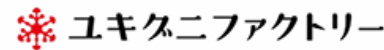
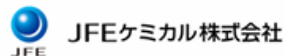
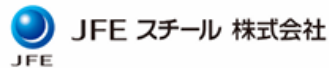
## 3つのAI事業により価値提供

オーダーメイドAIで培ったノウハウをパッケージ化し、類似の課題を素早く解決



# 製造業のエンタープライズ企業を中心に、AI活用による効率化を実現

※一部抜粋



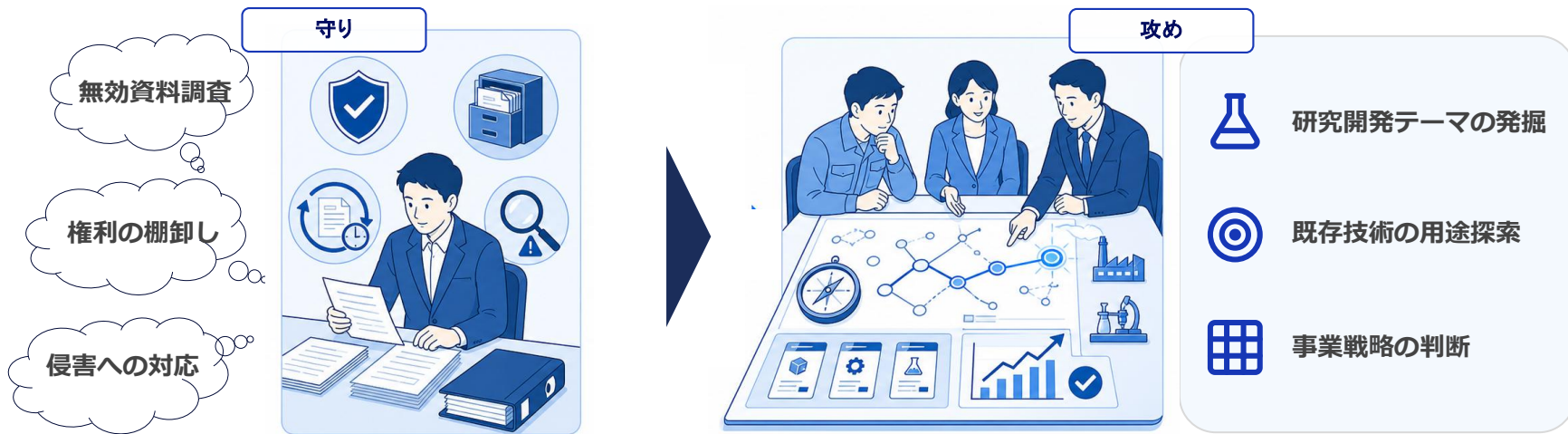
An aerial photograph of a large industrial complex, likely a refinery or chemical plant, taken at dusk. The scene is dominated by numerous large, cylindrical storage tanks and several tall, striped smokestacks. Plumes of white smoke or steam are visible rising from some of the industrial structures. In the background, a city skyline and distant mountains are visible under a twilight sky with soft clouds. A body of water is on the right side of the frame. A thin blue vertical line is positioned on the right side of the image, passing through the text.

# 問題定義

Using Generative AI To Drive Industry 5.0 Transformation

## 知財情報は「守り」から「攻め」の材料へ

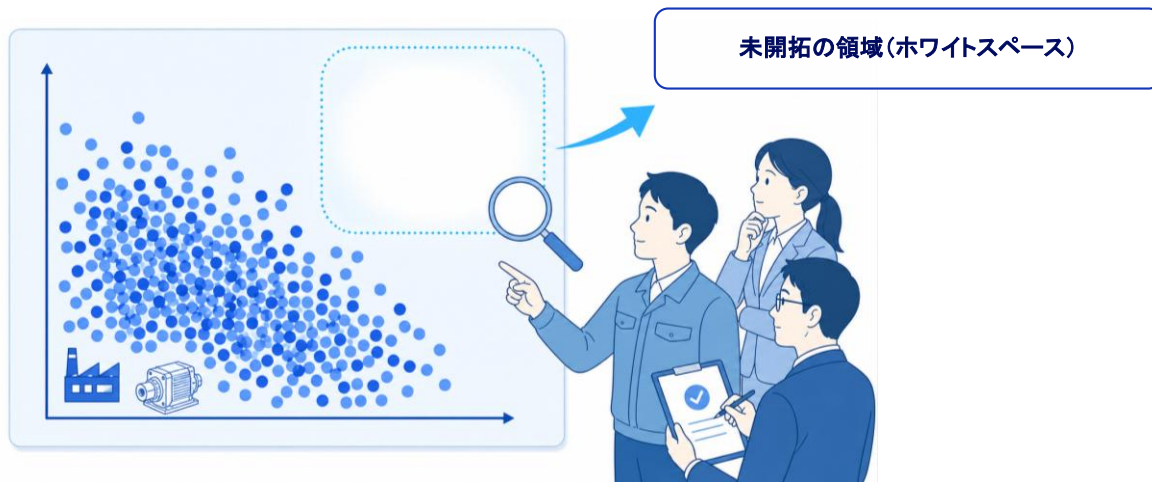
どこに投資するかを早く正確に決めた企業が勝つ。その材料となる情報が特許の中にある。



特許情報は、事業戦略・経営戦略における意思決定の材料へ

## まだ誰も解いていないニーズを見つける

世の中の特許公報を整理・マッピングすると、業界や技術の動向とその中での未開拓の領域が見えてくる。



既存の特許公報から市場の動向を読み取り、空白を先に見つけた企業が次の市場を取る

## 一方で、IPL活動の実施状況は芳しくない

必要だとは分かっている。しかし、実際にやっている企業はごくわずか。

必要だと考えている  
**約 8 割**



IPランドスケープは重要だ、という認識は共有されている

本日のテーマ

実際にやっている  
**約 1 割**



マップを継続的に回し、事業の判断に使っている

出典：特許庁「経営戦略に資する知財情報分析・活用に関する調査研究」報告書（2021年4月）

本ウェビナーでは、このギャップの正体とその解決策についてお話しします。

## ホワイトスペース探索の一般的なフロー

母集団を設計し、公報を集め、分類してマップにする。この流れを、時間と工数の強弱をつけて実施する。



ホワイトスペース探索のために重要な要素とは？

## 分析を速く、繰り返し行えること

意味のある示唆は、仮説の切り口を都度変えながら、分析を繰り返し重ねた先に得られるもの。

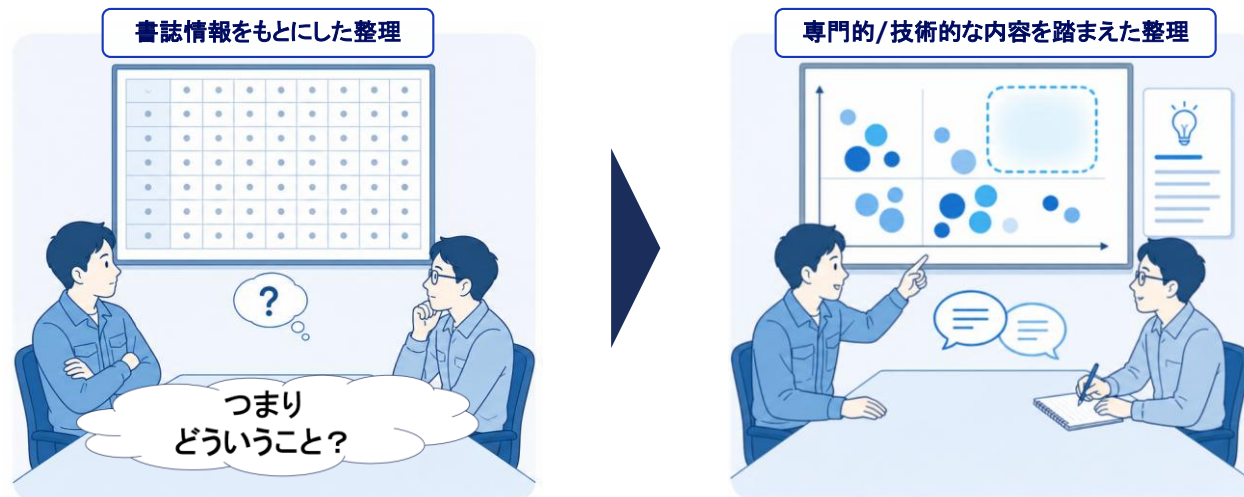


### 示唆の獲得

- ✓ どこが空いているか
- ✓ それはなぜなのか
- ✓ 自社で狙える/狙うべきか
- ✓ 自社はどこに投資すべきか

## 特許の中身に即して整理されていること

公報に記載の課題や解決手段、特許分類など書誌情報での整理では、技術者目線でも納得感がない。



特許公報の中身を読み込み、技術内容を理解したうえでのマッピングが必要

## 次のアクションへの具体的な示唆が得られること

単にマッピングするだけでは、具体的な示唆は得られず、「つまりどういうこと？」で終わってしまう。



概観を出して終わりではなく、どこに注目すべきかと、その根拠となる時系列・出願人の動きまで見て、初めて判断できる。

## ギャップの要因は3つ

手軽に回せない、技術者が読めない、次の一手を決められないことがギャップの要因。

### 回せない

1

1周が重い

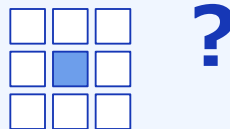


設計・収集・分類に  
時間がかかる

### 読めない

2

技術的な意味が見いだせない



書誌情報の軸では  
技術者が判断できない

### 決められない

3

解釈して示唆を得ることが大変



注目点・競合・次の狙いが  
示されない

速く回す × 技術で読む × 次の手を決める ⇒ 探索が日常業務へ

## 既存の特許調査・分析ツールの位置づけ

各ツールは工程の一部を効率化する一方、探索全体を一気通貫で回すところまでは支援しない。

### 検索・母集団形成型

①

集めるまでは速い



母集団は作れるが、  
中身を読む工程は人に残る

### 統計マップ型

②

書誌の集計止まり

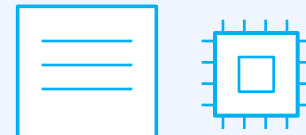


軸は出願人・分類・頻出語で、  
技術の中身までは読めない

### 読解支援型

③

1件ずつの効率化



要約・査読は速くなるが、  
全体の俯瞰と示唆は出ない

どれも工程の部分最適 ⇒ なかなかホワイトスペース探索が日常業務にならない



# 解決策

Using Generative AI To Drive Industry 5.0 Transformation

## 直感的な操作で、具体的な示唆を提示

分析したい特許リストをセットし、自由文で指示を入力すれば、マップとレポートが出力される。

### 入力は2つ

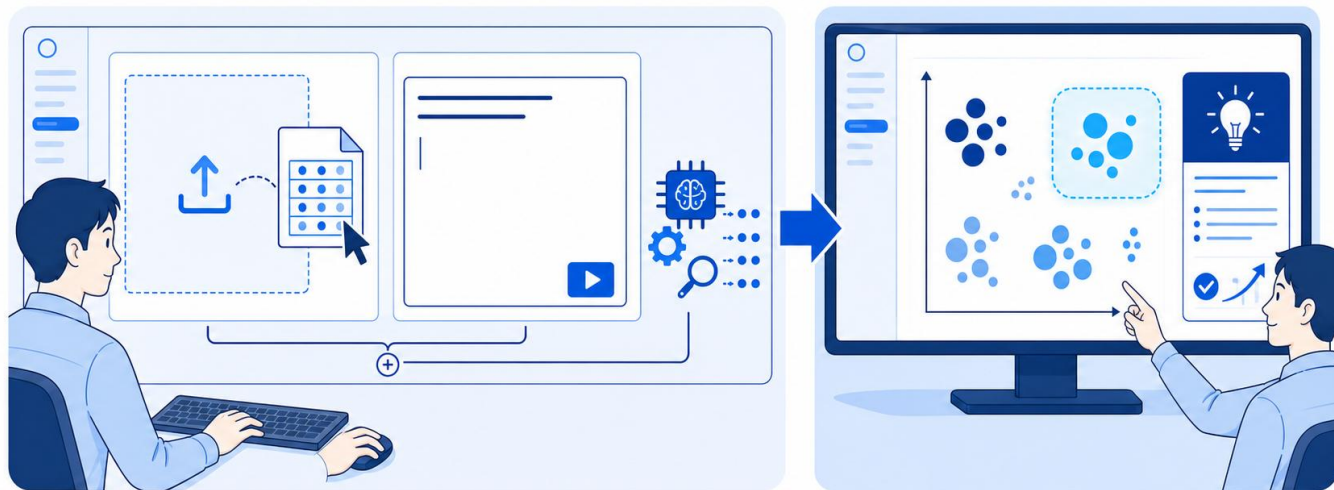
#### 特許リスト

CSVファイル

+

#### 背景情報

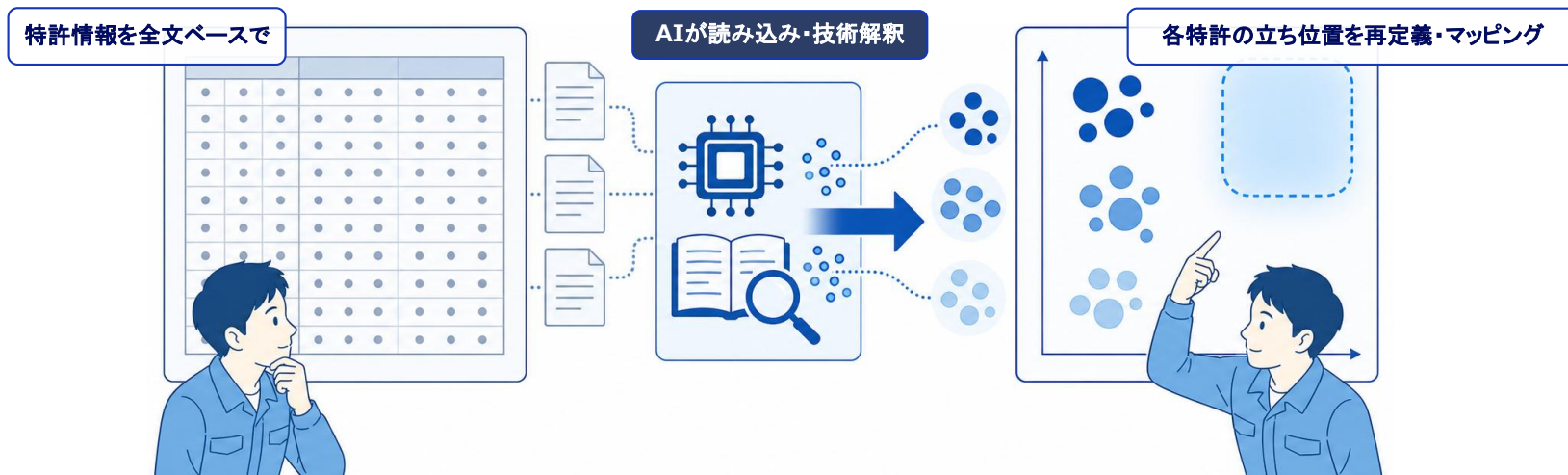
フリーテキスト



直感的な操作で完結するため、研究開発部など現場での活用実績も多数

## AIが技術の意味を理解してマッピング

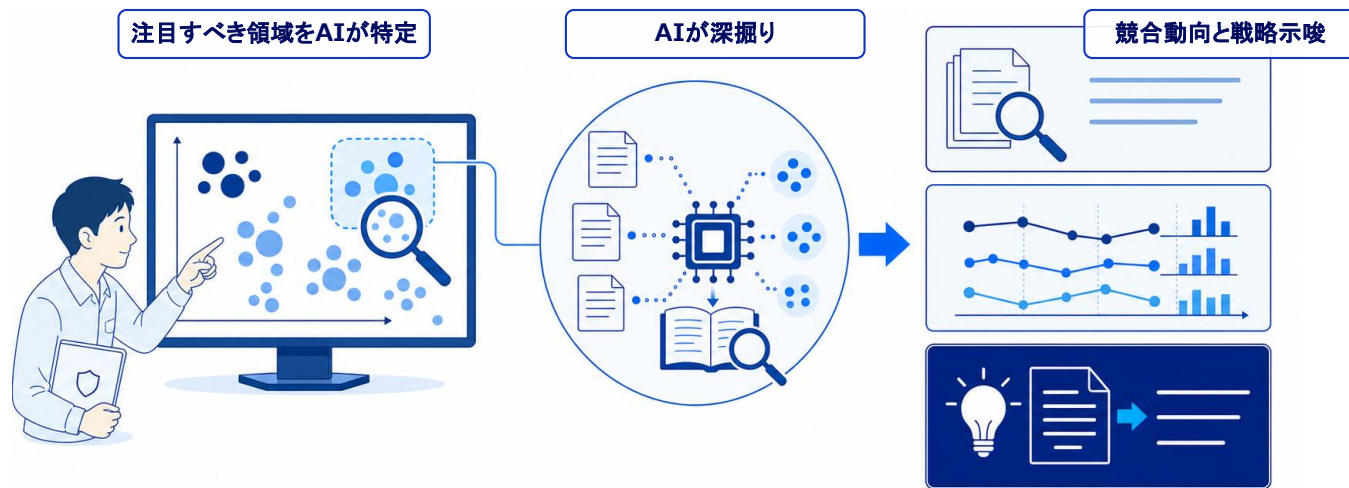
AIが特許リストの全文を読み、技術内容を理解して「課題」「解決手段」を定義・マッピング。



技術内容をベースに、「本質的に他社がやっていないところがどこか」を可視化。

## 注目領域を掘り下げて、具体的な示唆を提示

特徴のある領域に注目・深掘りし、出願人と時系列の掛け合わせで具体的な示唆を提示



マップを出して終わりだけでなく、「つまり、どういうことが言えるのか」の示唆まで提示する

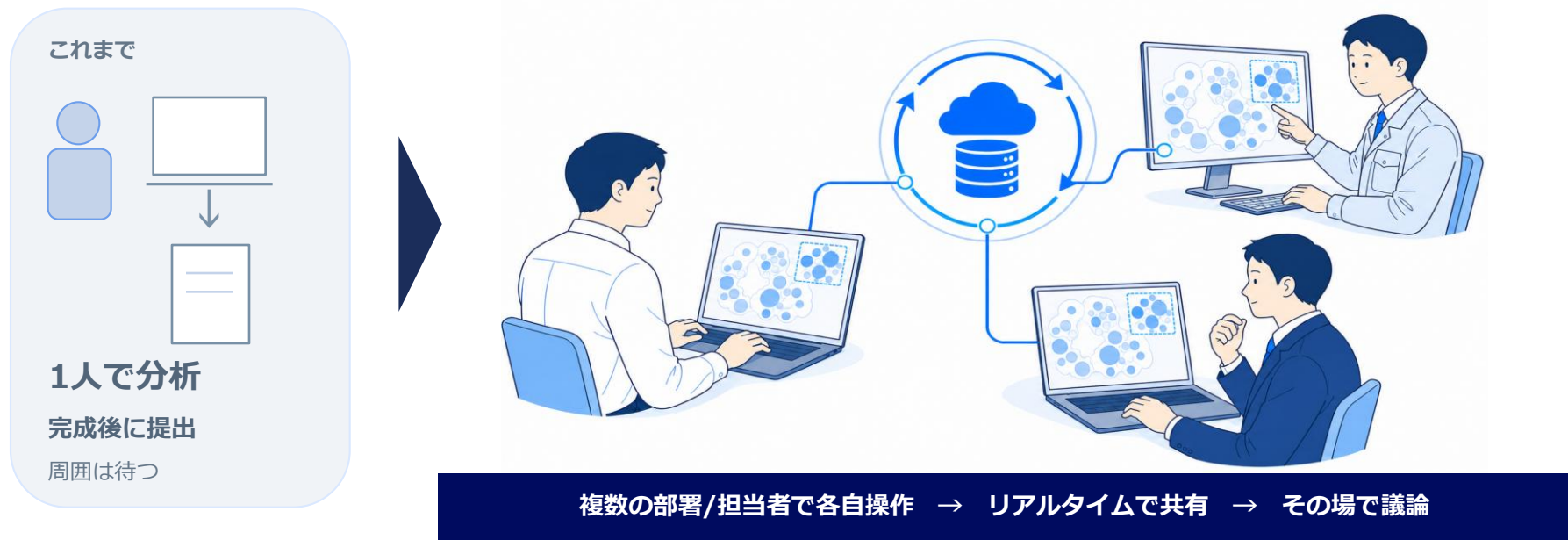
## 操作を5分で終えて、約3,000件の特許を1時間で分析

CSV投入と指示だけ。AIが特許明細書を読み込み、マップと深掘りレポートまで自動生成。



## 一人で仕上げる体制から、複数の部署/担当で回す体制へ

ID制課金ではないため、気軽に複数の部署/担当者が同じ画面を共有し、各自の手元で操作可能



## 一人で仕上げる体制から、複数の部署/担当で回す体制へ

ID制課金ではないため、気軽に複数の部署/担当者が同じ画面を共有し、各自の手元で操作可能

これよりデモ実演をいたします。  
実際の挙動を確認いただき、具体イメージを付けていただきます。

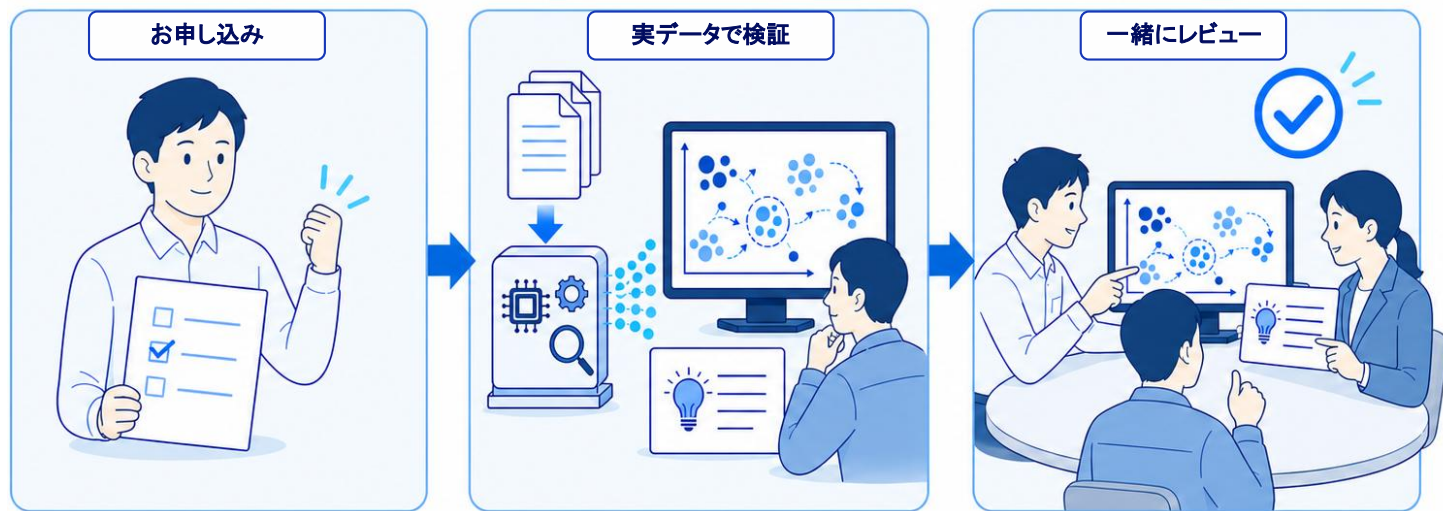
完成後に提出

周囲は待つ

複数の部署/担当で各自操作 → リアルタイムで共有 → その場で議論

## 無料トライアルのご案内

貴社の実データでお試しいただき、結果を一緒に確かめます。



この後のアンケート内の「個別無料相談」からお申し込みいただけます

# アンケートへのご協力依頼

## ウェビナーご参加の皆さまへ

本日はウェビナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

ウェビナー終了後に **Zoomからアンケート** が送信されます。

今後の内容改善や、貴社の課題解決に向けた提案に役立てたいと考えております。

**アンケートにお答えいただきましたら、本日の資料を送付いたしますので、  
是非、アンケートへのご協力をお願いいたします**

所要時間は **約1～2分** です。

アンケートへのご回答、お願いいたします。  
ご参加、ご清聴のほど誠にありがとうございました!!



問い合わせ先  
[sales@emuniinc.jp](mailto:sales@emuniinc.jp)

